

# ご近所の お医者さん

420

大阪医大三島南病院長

後藤研三さん 一高槻市

出会いみつめる



## 傷の消毒について

みなさん、けがをされた時ほど、さす湿潤状態を保つ——この三つをうしていますか？ 軽いけがなら、市販の消毒薬を塗ってばんそうこうやガーゼを当てる、心配な時は、近所の診療所や病院に行って、毎日消毒してもらっていませんか？

傷の治り方は20年以上も前から研

究されてきました。①消毒しない②水道水(流水)でよく洗う③乾か

が現在の創傷治療の基本です。消毒薬は細菌を殺すもので、

が、当然正常な細胞や、傷を治して

させるので、傷は乾燥し、剥がす

用していましたが、水道水と滅菌水との比較研究で「水道水で問題ない」という結果が出ており、最近では水道水で洗っています。

そして、よく洗った後の傷には、ガーゼではなく皮膚保護材を当てます。ガーゼは水分を吸って蒸発

させると、傷口が乾燥し、剥がす

ときに傷にくっついて、せっか

皮膚保護材が市販されています。「傷は消毒しない」と先に述べましたが、手術時は体内に多量の細菌が入る可能性があるため、その部位を十分に消毒し、可能な限り細菌の数を減らします。また、カテーテルなど体内に残す人工物も感染の原因にならないよう消毒

します。手術創を閉鎖するときは皮下組織を含めて水でよく洗浄し、皮

膚を縫合したり、接着剤でくっつけたりして皮膚保護材を貼りま

す。手術創は48時間程度でくっ

## 流水で洗い乾燥防ぐ

め、傷の治りを遅らせてしまいま

大量の菌が必要といわれていま

は約20年前、人工肛門に使用する

おおさか

は必要ないのです。